

平成30年度第1回弘前市健康づくり推進審議会会議録	
日 時	平成30年7月25日(水) 午後1時～午後2時40分
開催場所	弘前市役所 新館6階 大会議室
出席委員	中路重之 委員(会長)、大西基喜 委員、今村憲市 委員、前田淳彦 委員、築館寛子 委員、柿崎良樹 委員、八木橋 喜代治 委員、成田 津江 委員、神昭男 委員、下山清司 委員、鳥羽栞 委員、濱田真知子 委員 [13名]
欠席委員	斎藤明子 委員、山中朋子 委員 [2名]
市側出席者	櫻田市長、外川健康福祉部長、須郷健康福祉部理事、一戸健康づくり推進課長、工藤参事、工藤課長補佐、山内課長補佐、太田主幹、佐藤総括主査、鳴海総括主査、澤居総括主査、三上主査、舘山主査 [13名]
開催形態	公開
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委嘱状交付 3 市長挨拶 4 委員紹介 5 会長選出、会長職務代理者指名 6 諮問 7 案件 <ol style="list-style-type: none"> ①弘前市健康増進計画「健康ひろさき21(第2次)」の中間評価等について <ul style="list-style-type: none"> ・弘前市健康増進計画「健康ひろさき21(第2次)」の概要説明 ・弘前市健康増進計画「健康ひろさき21(第2次)」の中間評価説明 ・質疑 ②その他 8 閉会
市長挨拶	<p>・市民生活を第一に、市民の「暮らし」を支え、市民の「いのち」を大切に、次の時代を託す「ひと」を育てる、その三本の柱でこれからの弘前、新しい弘前をつくっていくという決意の下で市政を進めています。</p> <p>・本県の平均寿命は全国的に低く、本市における主要死因は、がん、心臓病、脳卒中などの生活習慣病が全体の約六割を占めています。</p> <p>・平成26年12月に、「弘前市健康増進計画(第2次)」を策定し、「“赤ちゃんから高齢者まで”市民みんなが健康でいきいきとした生活が送れるまち」の実現を目指し、市民の健康寿命延伸や、生活習慣病発症・重症化予防に向けた取り組みを推進してきました。</p> <p>・本年度は、国の基本指針に基づき、中間評価と計画の改定を行うこととなるため、本計画の評価及び改訂をはじめ、今後の市の健康づくり対策の推進にあたり、学識経験に基づく専門的な知見や、市民目線の提言などを施策に反映させたいと考えて</p>

	<p>います。</p> <p>・市民の健康増進、健康寿命の延伸に向け、格別のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。</p>
<p>主な発言</p>	<p>(市) (弘前市健康増進計画「健康ひろさき21(第2次)」の中間評価について、資料を元に市側説明)</p> <p>(委員) 今回の中間評価は、基準値との比較ですか。</p> <p>(市) 基準値との比較です。</p> <p>(委員) 基準値との話ですが、減少幅だと思いますが、どこからの減少ですか。元々の数値があって、そこからどうなったか、減り方が少ないとかだと思いますが、何を基準にしていますか。</p> <p>(市) 平成23年度に取得できた数値をベースとして、そこからの伸び幅等を評価しています。</p> <p>(市) 基準値から、最後の目標値までの本来伸びるべき値に対して、中間値でどれくらい伸びたかで計算して、伸び幅がプラスマイナスで5%以下であればどちらでともいえないということで横ばいとし、それを超えている場合は、プラス傾向、マイナス傾向のいずれかとしました。</p> <p>(市) 中間の目標値は設定していなかったため、最終の平成34年度の本来到達すべき値を100%として、それに対して中間値で5%以上、以下に伸びている、減っているかを基準としました。</p> <p>(委員) 最終の平成34年度の目標値に対してどれくらい伸びているかで判断しているわけですね。</p>

(市)

そうです。

(委員)

胃がん検診の結果がよくないようですが、ピロリ菌検査をしていると思いますが、それは検診率に入りますか。

(市)

ピロリ菌のリスク検診は入っていません。

(委員)

大腸がん検診を受けていない人にいろいろやっていると思いますが、それはこれに入ってきますか。

(市)

大腸がんの無料クーポン事業等は入っています。

(委員)

平成23年度の基準値から平成34年度の目標値までの差の中で、6%の達成度で線を引いて評価するのは妥当ですか。5年たつての評価で、たかだか6%程度の達成で上向きだというのはどうなのでしょう。

(委員)

何かを参考にしたのですか。

(市)

他市の事例は様々で、細かく分類しているところもありますが、当市では、中間目標値を定めていなかったため、達成度合いがどれくらいかということを計れないため、上昇傾向、下降傾向の傾向で示したものです。プラスマイナス5%では、まだどちらの傾向かは判断できないと判断しました。5%が妥当かといえば、そこはご意見のとおりかと思いますが、今回は、そこで線を引かせてもらいました。

(委員)

矢印がわかりにくいと思います。むしろ、達成度を数字で具体的に出せばよかったと思います。矢印で示すのは、わかりやすいようで実はわかりやすくはなく、具体的な数字がないので、実際何%達成しているのかをこちらで計算しないとわからないので、わかりにくいと思います。

(委員)

赤の矢印、青の矢印の意味が分かりにくいので、もう一度説明をお願いします。

(市)

青は、基準値から目標値に向かって、いい方向に向かっているというものです。それが逆に遠ざかっているものが赤の矢印です。

先ほど、達成度が何%なのかというご意見もありましたが、それで示そうとも考えましたが、実際にやってみたところ、よい結果が出ず、中間の目標値の設定もしていなかったなので、今回は傾向で示すことにいたしました。次回の会議で数字が必要であれば準備したいと思います。

(委員)

がんの精検率が低いので、保健師さんがもっと積極的に介入していかなければならないのではないですか。

(市)

当市では、がんの精検受診の未把握者がかなり多く、平成29年度から医療機関で実施している分について個別通知を出して、返事がない人に対して、看護師、保健師が個別訪問し、受診確認、受診勧奨していますので、平成29年度実績は上がるものと考えています。

(委員)

では、この低い数字は、未確認の分が影響しているということですね。

(市)

平成28年度までは、個別の医療機関で精検を受けた場合、精検の結果カードが市に届くことになっているのですが、それが少なかったため受診率が低いものと考えており、その確認を平成29年度から始めています。

(委員)

糖尿病の指標の文章で、HbA1c8.4%という数字が見えますが、8%を超えるとコントロールが悪いとなっていますので、8%にすればよいと思います。

(市)

第2次計画策定当時に設定したもので、計画の改定に当たってはご相談したいと思います。

(委員)

最後のページで、心の健康相談事業があるが、具体的にはどのようなことをしていますか。

(市)

保健センターで、月1回、心の相談日を設け、予約制で相談事業を行っています。なお、随時、電話等に対応するようにはしています。

(委員)

次世代の健康のところで、毎日、朝食を食べるようにしている子どもの割合とありますが、朝食を食べているという言葉の方がはっきりしているのではないのでしょうか。

(市)

健康日本21に準じた表現としていますが、内容としては、朝食を食べている子どもの割合となっています。

(委員)

中間値で、87.4%が食べているとありますが、逆に言うと、12.6%の子どもは朝食を食べていないということですね。

(市)

残念ながらそういうことになります。

(委員)

子ども食堂が弘前にあると聞いていますが、このような活動、存在を市民にPRすれば、寄付が集まり、活動が充実していくのではないのでしょうか。

このような活動を市は把握しているのでしょうか。

(市)

現在、市内には4か所設置されていると思っています。NPO法人や個人で行っているものですが、全国的に、財政的にご苦労されているとの統計データがあり、何らかの形でかかわっていくべきとは思っています。

(委員)

私を含め、このような活動をできれば支援したいと思っている人がいますが、お金とか食べ物とかどこに持って行けばよいものでしょう。

(市)

現状は、それぞれの運営に任されており、市で取りまとめはしておりませんが、行政として、しっかり情報を取りまとめ、差し上げていく等、かかわり方を考えていきたいと思えます。

(委員)

がん検診の受診率がなかなか上がらないのはなぜなのでしょう。

(市)

市で実施した平成29年度等の市民アンケートでは、がん検診を受診したという回答が4割から5割という結果になっています。がん検診の受診率の対象者のとらえ方ですが、全人口に対するがん受診者数となっています。しかし、この受診者数は市町村の健診でがん検診を受診した人数であり、職場で受診した人の分は入っていないため、実態と乖離している現状があります。

(委員)

よそと比較したらどうでしょう。

(市)

国より高く、県よりは低いというところです。

(委員)

がん検診受診率、精検受診率を高めるにはどうすればよいかということですが、本人のリテラシーを高めるということが一つで、もう一つは、例えば、八戸市では、健診センターが二つあり、健診が受けやすい環境というのは大事なのではないかと思います。

(委員)

健診結果、精検結果に、パンフレット等を同封し、情報提供をきちんとやることも大事だと思います。

(委員)

精検の話ですが、町内の知り合いの人で、がん検診を受けて引っかかっても、精検に行かないという人がいます。理由は怖いからだそうです。がん検診も怖いから受けないという人もおり、受けない気持ちがよくわからないし、ショックでした。

(委員)

自分のところの農村地帯では、交流センターで年2回健診がありますが、やる

時期が悪いと思っています。7月にありますが、農家は朝早くから忙しいため行けないというのがあると思います。8月だとわりと暇なので、日にちを何とかするということも必要なのではと思います。

(市)

健診センターから聞いたところによると、秋までは従来やってきた場所での健診が優先されるとのことでしたが、わりと冬場空いており柔軟な対応も可能らしく、冬場でも、地区で人数をまとめることができれば、冬場の都合のよい時に健診を実施することは可能かと思います。

(委員)

がん検診の精検を受けないという先ほどの話で、がんイコール死亡するという潜在意識が強いのかもしれませんが、がんは治るんだという風に意識を変えていくことが大事なのではないでしょうか。

(委員)

県で以前、がんはこわくないという冊子を配布したことがあったと思いますが、それをとある団体に、がん検診は受けましょう、がんは怖くないですよと話をし、回し読み用に数冊差し上げました。非常にわかりやすく、あの冊子を市で予算化して増刷できないものでしょうか。読むことで、健康教養が身に付いていくと思います。

(市)

がんについては、きちんと情報を伝えていくことをこれから考えてまいります。

(委員)

近隣地域、大鰐とか平川とかとは、健診関係の差はあるものでしょうか。

(市)

がん検診は、各市町村それぞれでやっていますので、様々です。弘前市では、医療機関が多いので、医療機関では通年受けることができます。バスで各地区を回るのとかは年2回くらいずつ行っていますが、農村部が多いです。集団で受けたいという声は多くなっており、集団で受ける機会を増やしてきています。

(委員)

今回は時間も限られているので、今度、2回目には、突っ込んだ話をいたしましょう。根本的にどうすればよいか、建設的な話をしてまいります。

(案件②として、市より次回会議日程等の連絡事項を説明)